

令和3年度東京都立農業高等学校 全日制課程 学校経営報告

1 教育活動の目標と自己評価

(1)進路指導

【取組】

- ア 進路通信「進路Go!」を年間8号発行し、生徒の進路に対する意識を高めた。
- イ 「進路の手引き」(本校作成)をもとに、個別指導を徹底した。

【結果】

- ア 167名の卒業生のうち、大学・短期大学への進学が38名、専門学校への進学が73名、就職が38名、その他が18名であった。
- イ 進学のうち主な大学の内訳は、東京農業大学6名、日本大学2名、日本獣医生命科学大学2名、酪農学園大学1名、杉野服飾大学2名、東京家政学院大学3名であり、専門性をさらに高めようとする傾向がある。

(2)学習指導

【取組】

- ア 「学力スタンダード」については、各教科で生徒一人一人の学力を把握し、基礎学力の向上に努めた。
- イ 「技能スタンダード」の取組として、資格・検定の取得のための指導を行った。
- ウ 言語能力向上のために、課題研究発表会の取組等を行った。
- エ JETを活用した授業を1年生の全クラスで継続的・計画的に行った。
- オ 農業科において、GAP教育、HACCP教育を推進した。

【結果】

- ア 基礎学力の向上については、数値的なデータはないが、授業(座学)への取組については88%(R2:87%)、授業(実習)への取組については96%(R2:95%)の生徒が真剣に取り組んでいると回答している。
- イ 日本農業技術検定2級に12名・3級に126名(R2:81名)が合格、アグリマイスター顕彰制度ゴールドに1名・シルバーに511名(R2:5名)が認証された。
- ウ JETの活用により英語によるコミュニケーションを図る機会が増大した。
- エ 茶、ナシでJGAP維持のための審査を行った。

(3)生活指導

【取組】

- ア 頭髪、身だしなみ等の生活検査の指導を、定期考査時に年間2回行った。
- イ セーフティ教室を3月に実施した。

【結果】

- ア 頭髪、身だしなみ等の指導については、組織的な対応を行うことにより、生徒の規範意識を向上させた。
- イ 登下校における自転車事故はなかった。

(4)特別活動・部活動

【取組】

- ア 体育祭、農高祭を学年ごとに生徒のみで実施した。
- イ 部活動では、野球部、バスケットボール部、陸上同好会等が公式戦に出場した。

【結果】

ア 規模を縮小しての体育祭、農高祭だったが、生徒は前向きに取り組み、充実感を得た。

(5)健康づくり

【取組・結果】

ア 生命にかかわる病気、怪我、事件等はなかった。

(6)募集・広報活動、地域交流等

【取組・結果】

ア 授業公開・学校説明会を、参加人数を制限して8月と12月に行った。また、体験入学を、参加人数を制限して10月に行った。授業公開・学校説明会には中学生・保護者540名、体験入学には中学生・保護者92名の参加があった。

イ ホームページの更新を95回行った。

ウ 東京農工大学、府中市との連携を図ることにより、地域とともに歩む学校基盤を構築した。

(7)学校経営・組織体制

【取組】

ア 予算執行については、経営企画室と連携を図りながら、各教科・分掌の予算進行管理を行った。

イ 施設は築50年近くを経過しているため、老朽化が進んでおり、安全安心面での不安がある。

ウ 全教育活動から体罰等の根絶、いじめ防止に向けた取組を行った。

エ 月当たりの在勤時間が45時間を超える教職員を0（ゼロ）にすることを目標にするなど、ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取組を推進した。

オ 令和3年度から教育課程推進部を設置した。

カ 1名の生徒に対して通級による指導を行った。

【結果】

ア 執行率は100%、センター執行率は48%（R1：43%、R2：42%）である。

イ 体罰防止月間等を活用して全教育活動から体罰等を根絶するための取組を行った。今年度も体罰はゼロである。

ウ いじめを防止するために、教員の指導力向上とスクールカウンセラーの活用等に努めた。

エ 4月は月当たり在勤時間が45時間を超える教員が7名いたが、2月には6名に減少した。

オ 令和4年度実施の新教育課程に向けたグランドデザインの作成、探求学習の在り方・評価方法に関する研修、「人間と社会」のテキストの作成などを行い、教育目標達成に向けた指導体制を整えた。

カ 通級による指導を行った多ことにより、学习上・生活上の困難を改善することができた。

2 今年度の重点目標と数値

(1)生徒の進路希望実現 進路希望実現率90%以上

(実績 H30：94%、R1：97%、R2：94%)

進路決定率は89%である。

(2)学校満足度の向上 生徒の学校満足度90%・保護者の学校満足度90%

(生徒 H30：90%、R1：91%、R2：95%)

(保護者 H30：96%、R1：97%、R2：94%)

生徒の学校満足度は92%、保護者の学校満足度は90%である。

(3)組織的な生活指導体制 身だしなみ違反生徒ゼロ、自転車事故ゼロ

(H30実績 身だしなみ違反生徒のべ90名、自転車事故0名)

(R1 実績 身だしなみ違反生徒のべ 173 名、自転車事故 0 名)

(R2 実績 身だしなみ違反生徒のべ 10 名、自転車事故 0 名)

定期考査中に身だしなみ(頭髪)指導をした。10 名の生徒が不十分であったが、生活指導部を中心に指導を継続した。自転車事故についてはゼロである。

(4) 広報・募集活動の推進 全学科の入選応募倍率：推薦 3.5 倍、一次 1.3 倍

(H30 農業科実績：推薦 2.37 倍・一次 1.35 倍、家庭科実績：推薦 4.40 倍・一次 1.74 倍)

(R1 農業科実績：推薦 2.30 倍・一次 1.24 倍、家庭科実績：推薦 3.15 倍・一次 1.40 倍)

(R2 農業科実績：推薦 1.90 倍・一次 0.93 倍、家庭科実績：推薦 2.95 倍・一次 1.16 倍)

ア 推薦に基づく選抜 農業科は 2.19 倍、家庭科は 2.70 倍である。

イ 学力検査に基づく選抜 農業科は 1.09 倍、家庭科は 1.22 倍である。なお、中進対の倍率は、農業科 1.04 倍、家庭科 1.21 倍 (R2：農業科 1.01 倍、家庭科 1.10 倍) である。

(5) 地域との連携事業の充実 地域連携事業実施回数 20 回

(実績 H28：30 回、H29：30 回、H30：30 回、R1：30 回)

今年度も令和 2 年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域との連携事業に制限があった。

このような中、次の活動を実施した。

ア 近隣の保育園児にサツマイモ堀体験をさせた。

イ 府中市との「国天然記念物馬場大門のケヤキ並木保護更新プロジェクト」の協定もと府中市立第一小学校、府中市立府中第一中学校の児童・生徒と本校生徒がケヤキの種子拾い、種まきを行った。

ウ 「名勝小金井サクラ」の保存のためにサクラの苗木の養成、接ぎ木技術の方法を学んだ。

エ 都市園芸科、緑地計画科、食品科学科が、東京農工大学の先生から講義を受けた。

3 今後の課題と対応策

(1) 進路指導

進路指導部と学年との連絡を密にするとともに、外部教材を活用したテストの結果等の共有化を図る。また、事務上のミスが起こらないよう手順を明確にして、複数人でのチェックを確実に実施する。

(2) 学習指導

ア 生徒が農業高校で身に付けるべき学力の共有化を図り、「都立高校学力スタンダード」に基づき、具体的な学習目標を明示し、校内で組織的・効果的な指導を行う。

イ 生徒の実態に応じた適切な宿題・課題等を課すとともに、令和 4 年度から導入する外部教材の有効活用を図る。

ウ 学力や進路希望に応じた資格取得等を促進する。

(3) 生活指導

ア 身だしなみ、挨拶の励行、時間を守る、言葉遣いの指導を繰り返し行う。

イ 落ち着いた学習環境の確立やルールやマナーの遵守等、規範意識の醸成につなげる指導を行う。

ウ 薬物乱用防止、スマートフォン・携帯電話に係る犯罪防止等、生徒の健全育成に向けたセーフティ教室を実施し、犯罪に巻き込まれない指導を繰り返し行う。

エ 生活指導方針について、教職員の共通理解を深め、授業、学校行事等のあらゆる場面で統一的な指導を行う。

オ 部活動の加入率と定着率を上げ、自己実現の場としての部活動を一層魅力あるものにする。

(4) 特別活動

特別活動では、ホームルーム活動の大切さを全教職員が共有し、生徒が主体的に考え、互いに話

し合い協力し合う絶好の場となるよう、指導計画・指導方法をより工夫していく。

(5) 防災教育

生徒が地震や火災等の災害から自らの命を守る方法を身に付け、状況に応じた的確な判断や行動ができるよう防災教育を引き続き推進し、災害等に備えた学校の防災危機管理体制を充実させる。

(6) 募集・広報活動

- ア ホームページを適宜更新することにより、教育活動を発信していく。
- イ 学校見学会や学校説明会、体験入学等の実施内容等を充実させる。
- イ 専門学科の強みを生かした諸活動を関係機関等と連携しながら推進する。

(7) 健康づくり

- ア 生徒が快適な条件の下で学習できるように環境整備に努める。
- イ 生徒の体力向上に向けた取組を推進する。
- ウ 教育相談体制を充実させるために、スクールカウンセラーを有効に活用する。また、特別支援教育コーディネーターを中心に、支援を必要とする生徒に対する具体的な対応策を講じる。

(8) 学校経営・組織体制

- ア 経営企画室の学校経営参画を推進し、教育職員との連携、協力体制をさらに深める。
- イ 教育効果を一層高めるために、各分掌間の連携を強固にする。